



# 上内小学校だより

令和5年6月23日

No.5

文責：校長 馬籠 秀典

【学校の教育目標】ふるさとに誇りをもち、心豊かでたくましく、未来を拓く上内っ子の育成

## 5年生の「米作りから学ぼう」、6年生の「ふるさとをいつまでも」の学習が始まりました。

6月6日（火）に、上内農地水環境保全委員会の方々を講師にお招きし5・6年生が稲の種籾植えの体験をしました。5年生にとっては初めての体験なのでわからないこともあったと思いますが、講師の方から土の準備や種籾の植え方、水のまき方など、丁寧に教えていただいたので、子ども達も手際よく作業を進めていきました。講師の方から最後に「水やりを欠かさず行い、6月16日（金）の田植えまで大切に育ててほしい。」とお話がありました。子ども達は翌日から毎日欠かさず水やりをすると共に、稲の種の生長を観察していました。

この時期は二十四節季で芒種（ぼうしゅ）と呼ばれ、米や麦など穂の出る穀物の種をまく時期と言われていきます。令和5年の芒種は6月6日（火）～6月20日（火）だそうです。上内小学校に赴任して、校区の緑豊かな環境から改めて季節を感じました。

6月16日（火）には、稲の種籾植えの時と同様に上内農地水環境保全委員会の方々のご指導のもと、5・6年生が田植えを行いました。まずは、泥遊びをして水田を代掻きした後、田植えを行いました。田植えでは、子ども達が張られたロープに沿って一直線に並び、植え付けの仕方を学びました。苗を立てて丁寧に植えることや、1回に植える苗の量、苗を植える深さ等、実際に体験しながら教えていただきました。最初は、時間がかかりましたが次第になれてきて、手際よく植えるようになりました。田植え後の子ども達は、「縦と横をきれいに



〈種籾植えの様子〉



〈種籾植えの様子〉



〈水やりと観察をしている様子〉



〈田植えの様子〉



〈田植え終了後の様子〉

揃えて植えるのが難しかった」「みんなでしゃべりながら植えるのが楽しかった」「しっかり大きく健康に育って欲しい」「お米は苦勞をして作られるので、ご飯を食べるときは、無駄にしない」等と感想を述べていました。当日の様子をNHK放送局から取材がありテレビで放送されました。

- 現在の少子化・核家族化の時代においては、子どもの自我の形成や社会性を育てるために、多くの方々と関わりながら体験活動を通して学習を行うことはとても大切です。特に、米作りの活動については、5・6年生では地域の方との米作りの体験活動を通して、地域の自然や環境について関心をもち、地域の方々の努力や工夫、想いを知り、地域のすばらしさを学び、地域への愛着がもてるようにしたいと考えています。特に5年生では、社会科との関連で、社会科で学習する日本の農業（私たちの食生活と食料生産）の現状や問題点を考える上でも有意義な体験活動になると考えています。また6年生では、地域（上内）の魅力を発信し、これからの上内について考えていきます。その際、米作りの体験から学んだり感じたりした魅力はとても貴重だと思っています。これからの子ども達の学びが深まることを期待しています。

## 6年生が修学旅行で長崎の文化遺産や被爆の歴史について学びました。

5月31日（水）～6月1日（木）の1泊2日で、6年生が玉川小学校の児童と一緒に長崎に修学旅行に行きました。1日目の午後には、玉川小学校との混合による5グループに分かれ、フィールドワークを行いました。気温が高く蒸し暑中、各グループとも玉川小学校の児童と仲良く元気にテキパキと行動をしていました。その後、長崎平和公園で平和集会を行いました。平和への願いを込めて「青い空」を歌い、自分たちで作った千羽鶴を捧げ、平和への誓いを捧げました。



〈平和公園での平和集会の様子〉

2日目は、上内小学校単独で3グループに分かれて、フィールドワークを行いました。活動終了30分ぐらい前から雨に見舞われましたが、3グループとも自分たちが計画した通り行動できたことはとても立派でした。長崎の地での2日間のフィールドワークを行う子ども達の姿は、とても頼もしく感じました。また、玉川小学校の子ども達とも笑顔で仲良く話している姿は見えてとてもよいものでした。修学旅行後に、修学旅行で学んだことも一人一人しっかりとまとめていました。まとめの中で、子ども達は、何か問題が起きたときには、話し合いで解決をすると発表していました。いじめがなく、誰もが安心して過ごせる学校であるためにも、相手の立場や言うことをしっかり聞いて、日常の学校生活で起こった問題を話し合いで解決して欲しいと思います。

## 保護者の皆様へ〔登校時について〕

登校時に車でお子様を送られるご家庭は、風雨のため徒歩での登校が危険と感じられる場合は、車で校内へ乗り入れられても構いませんが、できる限り登校時は学校の近くでお子様を下ろし、少しでも歩いて登校するようにご家庭でもご協力をお願いいたします。子どもの体力もこれまでのコロナ禍の影響で落ちてきています。体力向上のためにも歩いて登校するように学校でも指導をいたします。